

保険・年金 フォーカス

【アジア・新興国】

ベトナム生命保険市場(2022年版)

保険研究部 常務取締役研究理事 松澤 登

(03)3512-1866 matuzawa@nli-research.co.jp

1—はじめに

ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）は東南アジアに位置する人口 9946 万人（2022 年）¹の新興国である。その面積は 33 万 1346k m²であり、日本の約 88%である。

2022 年の名目 GDP 総額は 4090 億ドル²となっている。また一人当たり名目 GDP が 4087 ドルで、同じ東南アジアのタイ（7089 ドル）の 6 割弱である。

実質 GDP 成長率の伸びについてだが、新型コロナ禍による影響を受けた 2021 年の対前年比 2.56% 増から、2022 年は 8.02% 増を記録した。平均 6-7% 増を維持していた新型コロナ以前の成長率が戻ってきたようである。

ベトナム経済は近年、農林水産業中心から工業およびサービス業へと重心を移してきた。2022 年度も同様である。各業態の GDP 増加率であるが、ベトナム統計総局の資料によれば、農林水産業は対前年比 3.36% の増加であり、工業・建設業は対前年比 7.78% 増加である。サービス業の成長は 2021 年には低迷していたが、2022 年は対前年比 9.99% 増と大幅に増加した。新型コロナ禍下でも成長し続けていた輸出入は引き続き好調を続け、輸出額は 3713 億ドルで前年比 10.5% 増となり、輸入額は 3589 億ドルで、同じく 7.8% 増となり、輸出入額の合計は 7302 億ドルとなった。

2021 年に一時悪化した失業率は全体で 2.34% と、昨年より 0.86% 改善した。なお、新型コロナの影響についてであるが、ベトナムでは 2022 年 4 月に濃厚接触者の隔離を不要とするなど、いち早くアフターコロナへと踏み出した。また、マクロ経済も安定し、物価上昇率も 2022 年は対前年比 3.15% 増とベトナム議会の設定した範囲内に収まった。

本稿ではベトナム財務省保険監督部が発行した 2022 ベトナム保険市場年次レポート³のデータを元

¹ Jetro HP https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/basic_01.html 参照

² 以下、本文の各種数値はベトナム統計総局の数値を引用。

<https://www.gso.gov.vn/wp-content/uploads/2023/06/Sach-Nien-giam-TK-2022-update-21.7-file-nen-Water.pdf> なお、一部データがない項目があり、その場合前掲注 1 のデータを利用した。

³ 「The Annual Report of Vietnam Insurance Market 2022」ベトナム財務省 HP

にベトナム生命保険市場について解説を行う。以降の数字、図表は同レポートよりの引用である。

2—保険市場の概況

1976年の南北ベトナム統一時、南ベトナムにあった既存生保は消滅した。以降、1964年に当時の北ベトナムで設立された国営保険会社であるベトナム保険会社（現在の Bao Viet Holdings）のみが、伝統的損害保険商品に限定して販売するという一社独占体制が長らく続いた。政府は現在も共産党一党独裁制が続いているが、1986年に開放政策であるドイモイ政策が打ち出された後、保険市場の開放が進むこととなった。

保険市場の改革により、1994年に民間保険会社の設立が許容され、1995年には生命保険の販売が再開された。また、1996年には外資系保険会社とベトナム国内社の合弁会社の設立が、1999年には外資系保険会社の100%子会社設立が認められるようになった。これを受け、1999年に Prudential と Manulife が参入し、以降、外資の参入の本格化が進んだ。2022年末の生命保険会社数は19社である。

市場規模としては、収入生命保険料が年間178兆3270億ドン（1兆18億円（2022年12月の円ドン為替レートの概算である1円=178ドンで計算、以下同じ））である。ベトナムにおける生命保険の市場浸透率（Insurance Penetration、対GDP保険料収入）はGDPの上昇に保険料収入増が追いついていないため、1.87%（2021年2.47%）と対前年比で減少した。

3—新契約の状況

2022年におけるベトナムにおける生命保険の新契約の伸びは足踏みをすることとなった。2022年の生命保険新契約件数は3,414,561件で対前年比4.09%減となった。うち、個人保険が3,413,732件、団体保険が829件（加入者は144,038人）である。

新契約について、主契約に係る収入保険料は45兆6220億ドン（2563億円）で対前年比2.14%増となった。付保保険金額は1668兆2360億ドン（9兆3721億円）で対前年比8.09%増となった（特約除きでは9.35%増）。個人保険の主契約平均付保保険金額は4億8860万ドン（274万円）となっている。新契約件数が減少したにもかかわらず、一契約当りの平均付保保険金額が15.89%増加していることが、新契約収入保険料の増加に寄与した。

団体保険の平均付保保険金額は一団体当たり326億ドン（1億8314万円）で、加入者一人当たり直すと1億8750万ドン（105.3万円）となっている。

新契約の会社別マーケットシェア（新契約収入保険料ベース）であるが、収入保険料ベースで順に、Prudential(17.82%)、Manulife (17.66%)、Dai-ichi(第一生命ベトナム、13.32%)、Bao Viet Life(10.39%)、AIA(8.24%)、FWD(7.09%)、MB Ageas(7.00%)、Sunlife (6.64%)となった(次頁図表1)。

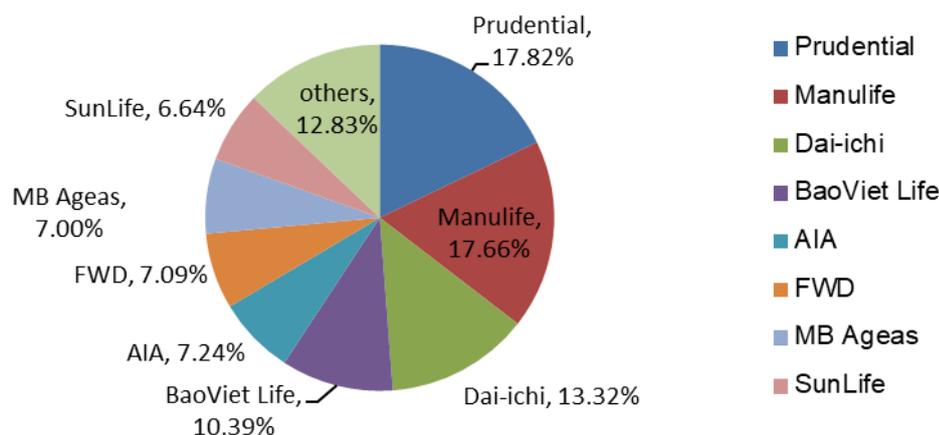
収入保険料ベースの新契約シェア状況の推移を見ると、2018年から2021年までシェアトップを維

https://www.mof.gov.vn/webcenter/portal/cq/gsbh/pages_r//chi-tiet-tin-cuc-quan-ly-giam-sat-bao-hiem?dDocName=MOFUCM286227 参照。

持っていた Manulife が対前年比 4.6%減とシェアを大きく減らして 2 位に順位を落とした。他方、Prudential が対前年比 3.8%シェアを増加させ、シェア 1 位を獲得した。また、2021 年に三位だった Bao Viet Life は 3%近くシェアを減らして 4 位に順位を落とし、シェアを 1.24%増加させた Dai-ichi が 3 位に浮上した。

【図表 1】 会社別新契約シェア

2022年度会社別新契約シェア (新契約収入保険料ベース)



新契約の商品状況を見ると、これまでも収入保険料ベースでは貯蓄・投資性の商品がほとんどであり、特に養老保険と投資連動型保険の販売が活発であった。そして 2021 年には販売される商品が投資連動型保険にほぼ集中する形となった。2022 年も同様の傾向であり、販売されている商品のほとんどが投資連動型保険となっている。

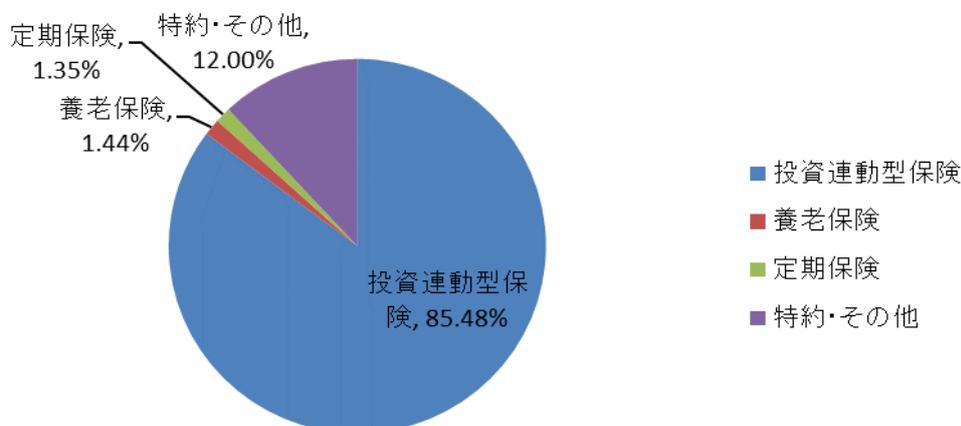
これを新契約収入保険料ベースで見ると、養老保険は 2021 年 1 兆 2630 億ドン (70 億円) から 2022 年は 7300 億ドン (41 億円) へと 42.20%も減少している。これに対し、投資連動型保険は 2021 年 41 兆 7440 億ドン (2345 億円) から、43 兆 4970 億ドン (2443 億円) へと 4.19%増加している。投資連動型保険が伸びたこともあるが、養老保険の人気のなくなったとも言える。

なお、ベトナムの統計上、ユニットリンク保険とユニバーサル保険とをまとめて投資連動型保険として分類している。

収入保険料ベースの商品別新契約シェアは投資連動型保険(investment-linked products)が 85.48%、養老保険(endowment)が 1.44%となっている。他方、保障性の強い保険としては定期保険が 1.35%となっている(図表 2)。

【図表 2】商品別新契約シェア（新規収入保険料ベース）

2022年度商品別新契約シェア (新契約収入保険料ベース)



付保保険金ベースで見ても投資連動型保険がほとんどである点は同様であり、投資連動型保険が92.37%となっている。そのほか、養老保険0.28%、定期保険が5.29%となっている。

定期保険は新規販売件数が1,010,637件、平均的な保険金額は8726万ドン（45万円）程度であり、小口契約が多い。

4—保有契約の状況

生命保険の保有契約は、総件数で13,921,675件、対前年比5.48%増であり、内訳として個人保険が13,920,700件、団体保険が975件（団体保険の加入者は311,522人）となっている。団体保険の規模は大きくない。

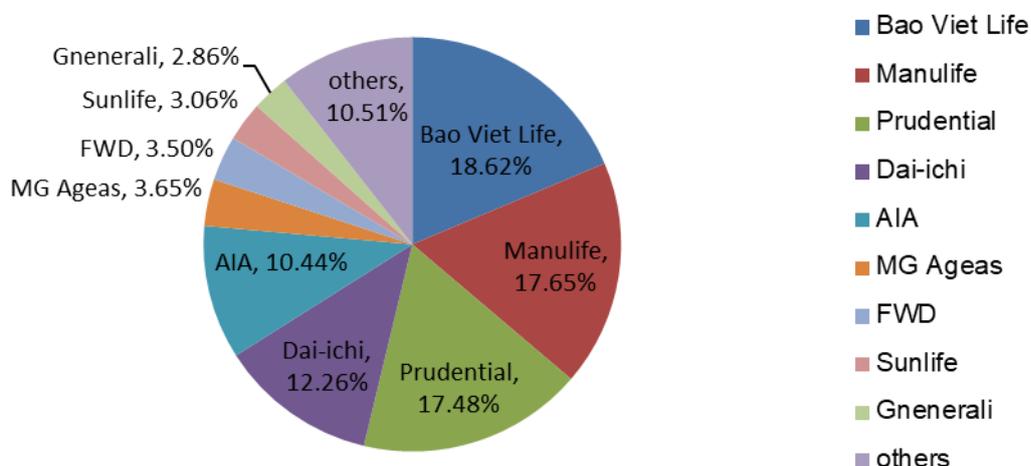
保有契約について、上述の通り、収入保険料が年間178兆3270億ドン（1兆18億円）で、対前年比11.19%増となった。また、付保保険金額は5523兆60億ドン（31兆281億円）で対前年比16.55%増となった。

保有契約の収入保険料ベースの会社別マーケットシェアであるが、各社の収入保険料ベースの新契約シェアの順位が入れ替わったにもかかわらず、上位社の前年からの順位の変動は生じなかった。

まず、老舗であるBao Viet Life(18.62%)は2021年に引き続き2022年も首位を維持したものの、対前年比0.57%シェアを落としている。2021年にシェア2位に浮上したManulife(17.65%)は2022年も2位を維持した。Prudential(17.48%)も引き続き3位を維持した。以下、Dai-ich(12.26%)、AIA(10.44%)、MG Ageas(3.62%)、FWD(3.50%)と続く(図表3)。

【図表 3】 会社別保有契約シェア

2022年度会社別保有契約シェア (保有契約収入保険料)

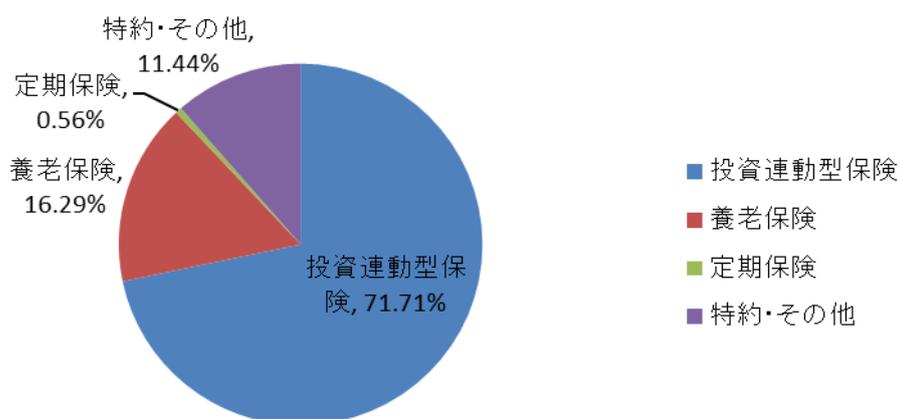


保有契約を商品別に見ると収入保険料ベースで投資連動型保険が 71.71%、養老保険が 16.29%、定期保険が 0.56%である(次頁図表 4)。

付保保険金額ベースで見ると、保有契約は、投資連動型保険が 90.49%、養老保険が 6.01%となっており、投資連動型保険において高額な保険金での加入が多い。

【図表 4】 商品別保有契約シェア (収入保険料ベース)

2022年度商品別保有契約シェア (保有契約収入保険料)



なお、保険金の支払状況(解約返戻金払戻を含む)であるが、総計で 42 兆 5600 億ドン(2391 億円)、対前年比 31.19%増となっている。ほとんどの給付は養老保険と投資連動型保険の満期保険金等である。また、責任準備金は 499 兆 1740 億円(2 兆 3957 億円)、対前年比 28.04%増となった。

5—販売チャネル

販売チャネルとしてはエージェント（個人、法人）、ブローカー、銀行窓販などがあるが、近時は生命保険会社と銀行との業務提携による銀行窓販が活発である。法規制上においては、2020年には保険のコンサルティングには資格を要することとするなど、保険販売における事業の環境整備が行われている。

2022年では、エージェントについては、個人エージェントが減少した一方で、法人代理店に属するエージェント数は増加した。結果として、個人エージェント(営業職員等)と、法人に属するエージェントを足した数は917,122名に達し、前年比0.05%増となった(図表5)。

【図表5】個人・法人エージェント数の推移

| 年 | 個人エージェント数 (名) | 法人代理店 | | エージェント数 合計(名) |
|-------|------------------|---------|------------|------------------|
| | | 代理店数(店) | エージェント数(名) | |
| 2021年 | 668,744 | 574 | 243,345 | 912,089 |
| 2022年 | 645,764 | 585 | 271,358 | 917,122 |

6—おわりに

2022年のベトナム経済は新型コロナからの回復が早く、かつ着実に行われた模様である。生命保険事業の成長は経済全体の回復に追い付かず、本文の通り、保険浸透率が減少するという現象も発生している。

ところで、ベトナムでの主力生命保険商品は投資連動型保険である。2022年のベトナム株式市場（VN指数）は年初から大幅下落し、年末までさえない展開が続いていた。ベトナム財務省のデータからは、どのような市場の商品に投資する保険商品かまでは判明しないため、断言はできないものの、株価が安値圏にあるとの見立てで販売促進を行ったのかもしれない。新興国では確定利率の養老保険よりも投資連動型保険のほうが国の発展とともに伸長することが期待されるが、どのような販売手法（株価下落についての注意喚起）が行われているのか興味のあるところである。